RIPPLE SAILING CLUB
NO. 156

月刊１９９６．０５．１７

RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒２３８－０３
神奈川県横須賀市長井２－１１－１
TEL 0468－57－1711

ヨット差し上げます。

この所低迷気味のマリン業界（セイリングボート）では有りますが、一人でも多くの人にディンギーを知ってもらうために、手をこまねいていただけではと思い、リプルではミニホッパー無料レンタルサービスに続き、第2段としまして次の様な提案を致しますので、会社のお友達、呑み仲間のお友達にご案内をして下されば幸いです。

それは、なんとヨットをただで差し上げます。

これは、遺産相続のため物納した置き場のオーナーから貰ったものとか、かつてスクールの卒業生にと安く仕入れた艇とか、単純にもらった艇等ですが、レースをするのでなければ十分に楽しめる艇です。もちろんリプルカップ程度のレースでしたら十分使用可能です。

但し、一つだけ条件が有ります。それは当クラブに入会をしてくれる事が条件です。

そこそこの程度の艇なので、中古市場に安く流そうかと考えましたが、どこの馬の骨かも知れない人に安く販売するのももったいないので、気心がしれたリプルに関係のある人に引き取ってもらうのが一番と考えました。

また、希望が有れば無料のヨットスクールもサービスしちゃいます。

座学から始まり、一人で帰って来るまで責任指導を致します。

今回提供します艇は次の４艇です。

マーチンスループ	２２９２
シーホッパーⅡ	８３５６
シーホッパーⅡ	８９３９
シカーラⅡ	４３２２

申し込みは早いもの勝ちとさせて頂きます。

もちろん入会金、保管金の費用は必要となりますのでご了承下さい。

7月20日は東京湾クルーズ

来る７月２０日（日）は初めての国民の祝日「海の日」がやってまいります。

マリンジャーナリスト達はマリンに関係のある雑誌等で　”海と遊ぼう７２０”　というキャンペーンを繰り広げております。

これは、各マリーナなりヨット、ボートのオーナーが、場所なり艇を無料提供して、先ずは海に出て”海体験　”をしてもらおうと、全国展開しているキャンペーンなのです。

そこで、当リプルとしても少なからずお役に立てればと思い、当リプルの会員さんを対象にＲＩＰＰＬＥ号を使い海体験をして頂こうと思います。

一時ディンギーでと考えたのですが、もしかすると梅雨が明けていなかったり、また既に海の家が出来ていて、ヨットの航路が設定されていたりでちょっと問題が有りそうなのでクルーザーを使用することにしました。

出港は深浦を１０：００位に出て、海上自衛隊の艦船を海から見学し、観音崎を交わし、マリンボートコーチヤで昼食をとり１６：００には解散となります。

全行程往復４時間の東京湾のクルージングです。

浦賀水道航路を行き交う外国船を横目に見ながらのクルージング、きっと楽しい海体験となることでしょう。

定員１２名ですがクルーも入れマックス１０名と考えておりますので、これも早い者順となりますが、あしからず！。

出来ましたら、お子さん連れで参加をして頂きたいのですが如何なもんでしょうか・・・・。

受付はＴＥＬでも構いません。身支度、集合場所等はその時にお話いたします。

ヨットって何が面白いのって訊かれてもね～っ!!

先日久しぶりに釣りのお誘いがあり、ヤマハＰＣ３０というクルーザーで、ここ長浜沖でマダイをとシーボニアから出かけました。

生憎１時間くらいで南の風が強くなり引き上げてきて、艇の清掃後デッキで食を取っているときですが、艇のオーナーの社長さんがぽつりと一言漏らしたのです。

もちろん私の素性は十分に分かっている人なのです。

『ヨットって何が面白くてみんなやっているのかなー？』と。

そのオーナーはシーボニアが出来た頃からの会員さんで、既に今の艇は乗り継いで３艇目の艇なのです。

話の始まりは神津島へ釣りに行った時の事から始まるのですが、私もその場で即答は出来ませんでした。

彼の話では神津島で釣りをして帰る日のこと、そこそこの大きなヨットがその彼よりも早々出港して行き、彼は昼食を済ませた後出港したそうです。

すると、３０分位で彼らの艇に追い付き、余りにも遅いので何かのトラブルかと思い近付き、安否を確認したそうですが極めて順調との事。

『横浜まで帰ると言っていたので、あれじゃ夜中に着けるかどうか分かったもんじゃねーよな、俺はあんなもんやだなー。』

うーむ！！考えさせられる一言であった。

ねっからのモーターボート派の彼に、どの様に説明して良いか分からず言葉を失ってしまった私でした。

かと言ってここで、何がよいのか真面目に活字に出来るような物ではないんですねこれが。

てっとり早く目的地には着けないわ、荒れて来ればずぶ濡れになるわ、夜や天気の良い日は睡魔との戦いになるわ、色々と憶えなくてはならないわ、増して絶えずちょこちょこと調整はあるわで、考えてみたら大変なことを我々はやっているのですね。

でも、セイリングの後には必ず得られるあの満足感はなんなんでしょうね。一言では言えないでしょう？。

確かにモーターボートは合理主義に見えるのであるが、非合理主義のヨットの持つ不思議さを何と彼に説明したら良いか、言葉を選んでしまうでしょう？。

逆に、セイリング中にモーターボートが横を快適に通り過ぎて行っても、何の感情も湧かないのは私だけなのでしょうか。

そこにはボートマンには恐らく無い、そして言葉では言い表せない何かの優越感みたいのが我々には有るからではないでしょうか。

決して手っ取り早くではないが、セイリングとは五感で感じ、考え、操作して行き、そして成長して行く、それがマインドの部分を心地よくさせているのではないのかなー。

そんなマインドの事を訴えている、いま封切りの映画、『ＨＷＩＴＥ　ＳＱＵＡＬＬ』に結論を見いだせるかもしれません。

ヨット駅伝は６月２日(日)

来る６月２日恒例になりましたヨット駅伝が行われます。

レース内容は例年通りで、海上のブイ３個を回ってきて、陸上のブイを参加者２人で二人三脚で回って次の帆走者にタスキ（Ｔシャツ）を渡し合計４周するというレースです。

海上の３個の内１個は陸上近くに打って有り、また陸上のブイを回らなくてはならないので、やんややんやの歓声の中でのレースになり大変盛り上がる初夏のイベントとして定着しております。

参加者大募集ですので奮ってご参加を！。